



「安曇野わさび」ブランド向上へ

2/26 地理的表示保護制度に登録申請

信州山葵農業協同組合（丸山光弘組合長）は、地域と結びつきの深い農林水産物などを知的財産として保護する「地理的表示（GI）保護制度」への登録を目指し、農林水産省へ登録申請を行いました。県内では、木曽地方の「すんき」、南信地方の「市田柿」が登録されています。同組合は、地元産ワサビを「安曇野わさび」と名付け、100年以上地域に根付くワサビのブランド力を高め、生産者の収益向上を目指します。早ければ半年程で登録となる予定です。



移住希望者が 真冬を体験

1/27・28 冬の安曇野体験ツアー

安曇野暮らし支援協議会（望月彰会長）は、安曇野への移住希望者を対象とした「冬の安曇野体験ツアー」を開催しました。県外から6世帯13人が参加。冬の気候を体感しながら、中古住宅や児童館の見学、地域の皆さんとおやき作りなどをして交流しました。参加者からは、「子どもと遊べる場所がたくさんあることが分かった。安曇野への移住が前向きに考えられた」といった感想が寄せられました。

天王原産ワインを目指して

2/24 天王原地区荒廃農地再生ボランティア作業

明科地域の農業を守る会の会員や農業委員、地権者の皆さんにより、荒廃農地の開墾作業が行われました。当日は、風が強く吹く中での作業となりましたが、約60人が参加し、立木を倒した後の畑に残る木の根を拾う作業を行いました。平成25年度から始まった再生事業は、毎年2㍏の開墾を続け、約9㍏の広大な農地がワイン用ブドウ畑としてよみがえりました。昨年度公募により新しく耕作者に選ばれた齋藤翔さん（三郷温）は、「まだ耕作地面積は少ないが、たくさんの人に応援されていることを胸に頑張りたい。天王原のワインを早く作り、皆さんの口に届けたい。」と意気込みを語りました。今後も畑の開墾と新しく設置したブドウ棚への苗の定植など、天王原をブドウ産地へと再生する事業は続きます。



消防団活動 親しんで

2/18 吹奏楽と消防ラッパのコンサート

安曇野市消防団（鳥羽昌弘団長）による「吹奏楽と消防ラッパのコンサート」が、豊科公民館で開かれました。当日は約550人が来場。音楽喇叭隊による安曇野市歌「水と緑と光の郷」をはじめ、「津軽海峡冬景色」、子ども向けには、「エビカニクス」などの曲目が披露され、会場から大きな拍手が送られていました。

安曇野市消防団音楽喇叭隊は、演奏活動を通じて、消防団員の士気高揚を図るとともに、地域のイベントなどで、防火・防災の予防活動を行っています。元団員で2歳のお子さんと来場した宮澤岳志さん（豊科）は、「今も夜警の音を聞く度に、陰ながら頑張る団員の姿を心強く思うとともに、安心して過ごしている。団員確保が難しく大変だと思うが、地域でできることは応援していきたい」と話しました。

消防団活動に興味のある人は、危機管理課（電話72-6769）またはお住まいの地域の消防団員まで問い合わせください。



ベンチプレスで世界記録

2/8 鈴木佑輔さん市長表敬訪問

12月にシンガポールで行われたパワーリフティングの国際大会で、世界記録を樹立した鈴木佑輔さん（三郷明盛）が市長を表敬訪問しました。

鈴木さんはベンチプレス・ノーギア83㌔級に出場。それまでの記録を0.5㌔上回る211㌔を上げ、世界記録を樹立しました。鈴木さんは「世界記録を出したのは初めてで大変うれしい。多くの人に競技を知ってもらおうきっかけになってほしい」と話しました。



環境活動レポートが大臣表彰

2/23 共和アスコン株式会社が受賞報告

優れた環境の取り組みを表彰する第21回環境コミュニケーション大賞（環境省等主催）の環境活動レポート部門で共和アスコン株式会社が大臣賞（環境大臣賞）を受賞されました。建設資材などを扱う同社は、全国に先駆けて環境保全の取り組みを推進してきました。今回の受賞は、昨年度の優良賞に続き、2年連続の受賞となります。

代表取締役社長の金原一男さんは、「社員一丸となって取り組んだ成果。地域の皆さんの心の潤いが持てる環境づくりに貢献していきたい」と話しました。